

ワイシャツの着衣動向と着用感について

酒井清子・石原久代

Studies on the Trends in White Shirts and Their Wearing Comfort

Kiyoko SAKAI and Hisayo ISHIHARA

はじめに

婦人服に関する情報・研究は著しく多く、また多方面より取り上げられ、その研究の範囲も多様化している。しかし、一方男子服についての研究は数少ないのが現状である。先に著者は昭和41年にワイシャツに関する調査を行い、名古屋女子大学紀要第12号¹⁾に報告したが、その後ワイシャツに関する研究は、ほとんど行われていないので、今回再びワイシャツを取り上げ、その着衣動向を調査し、合せて適合度および快適な着用感を限定する要因について検討したので報告する。

方 法

調査方法として、1. アンケート調査、2. 着用官能検査の方法を取った。

1. アンケート調査

現在のワイシャツの所持状況等を知るために、男子20歳～60歳の社会人80名（本学家政学部食物学専攻学生の父兄）および20歳～23歳の男子学生110名（愛知学院大学学生）により、ワイシャツの襟型別、袖型別、色彩別所持枚数についてアンケート調査を行うと同時に、ワイシャツ購入時の条件、サイズ、型態、材料および着用に対するイメージ等についても調査を行った。

2. 官能検査

着用感覚に関する検査として、被験者は成人男子40歳代の標準体型の5名とした。また、サンプルとしては、市販されているワイシャツ11種を取り上げ、身体の各部位（首、肩、胸、胴、袖）別に非常に快～非常に不快の7段階評価により快適度についての官能テストを行った。

以上、1、2、について数値化し、着用感に関する要因を明らかにした。

結果および考察

ワイシャツの着装形態を図1、図2に示した。図1は長袖で、(1)はネクタイをしめる、(2)はノーネクタイ、(3)は第1ボタンをはずし襟元を開口している着装図である。図2の(1)(2)(3)は半袖で着装形態は図1と同様である。

1. アンケート調査結果

表1に職業別のワイシャツの所持枚数をクロス集計した結果を示した。なお、上段は長袖、下段は半袖の数値である。今回の被調査者の職業構成は会社員が51.3%と半数以上を占め、次いで公務員が12.5%となっている。ワイシャツの長袖の所持枚数は6～10枚が55.0%と最も多

表1 職業とワイシャツ所持数

(%)

職業	枚数		0~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31~50	Total
	会社員	13.8	28.3	2.5	1.3	1.3	1.3	1.3	2.5	51.3
銀行員		2.5	1.3						3.8	
工場従業員	2.5	2.5	1.3						6.3	
公務員	5.0	8.8	2.5				1.3		12.5	
教員		1.3	2.5						3.8	
自営業	3.8	1.3		2.5					7.5	
農業		1.3							1.3	
その他	1.3	8.8	1.3	2.5					13.8	
Total	21.3	55.0	11.3	6.3	1.3	2.5	2.5	2.5	100.0	
	56.2	30.0	6.3	5.0	2.5	0	0	100.0		

上段-長袖 下段-半袖

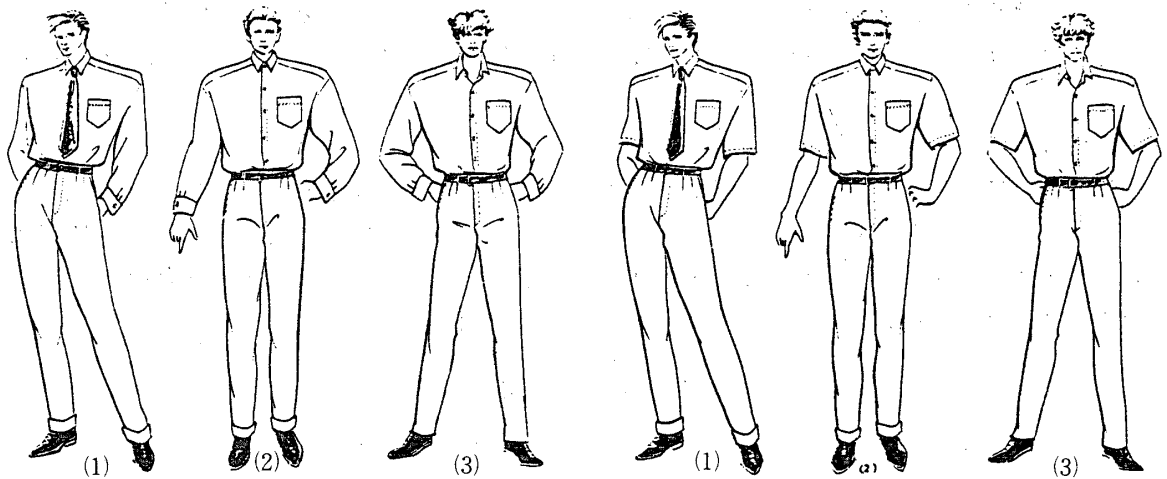


図1 着装形態(長袖)

図2 着装形態(半袖)

く、半数以上を占め、次いで0~5枚が21.3%である。また、半袖では0~5枚が56.2%と最も多く、次いで6~10枚が30.0%を示している。長袖のワイシャツの方が半袖に比べ所持枚数が多いのは、半袖を着用する時期がおおよそ6月~9月の4カ月間に限定されているためと考えられる。また、職業別については、工場従業員でわずかに所持数が少ないといえるが、他は

職業による差はほとんどないという結果であった。

次に、図3には、1人あたりのワイシャツの襟型別所持枚数の平均値を示した。市販されている襟型の主な形態は、図に示すような6種であり社会人、学生ともに、1. レギュラー・ポイント型(一般的な型)を最も多く所持しており、社会人では11.8枚、学生では3.0枚であった。次いで社会人では、2. ショート・ポイント型1.7枚、3. ボタン・ダウン型は1.3枚である。学生では、1. レギュラー・ポイント型に次いで、2. ショート・ポイント型、3. ボタン・ダウン型がいずれも1.7枚である。学生に3. ボタン・ダウン型がわずかに多いのはその形がカジュアルなため若い層に好まれるのではないかと推察する。

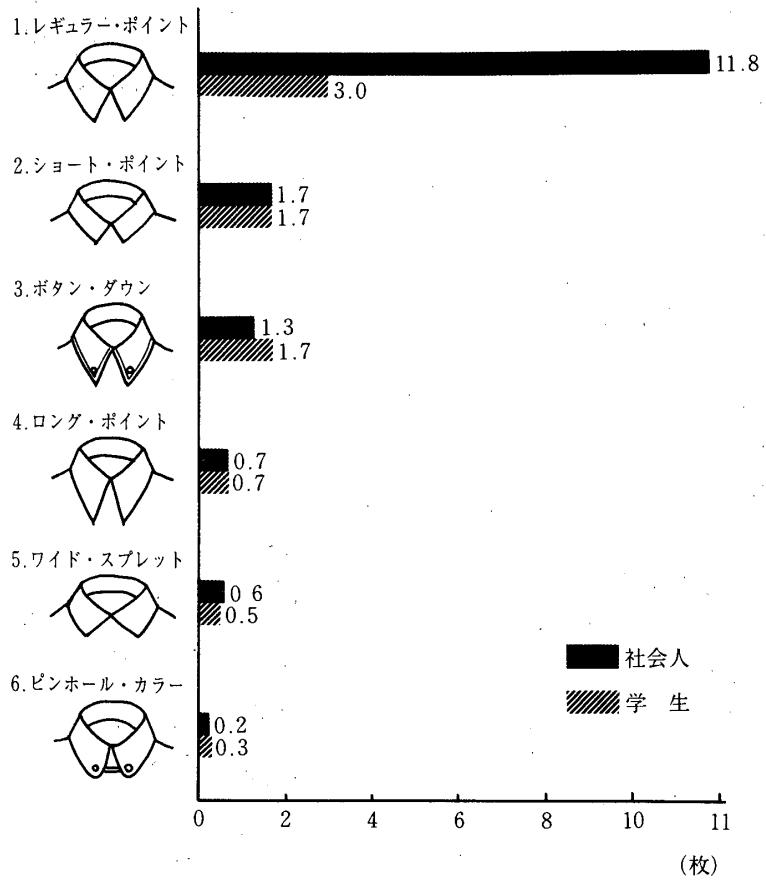


図3 襟型別所持枚数

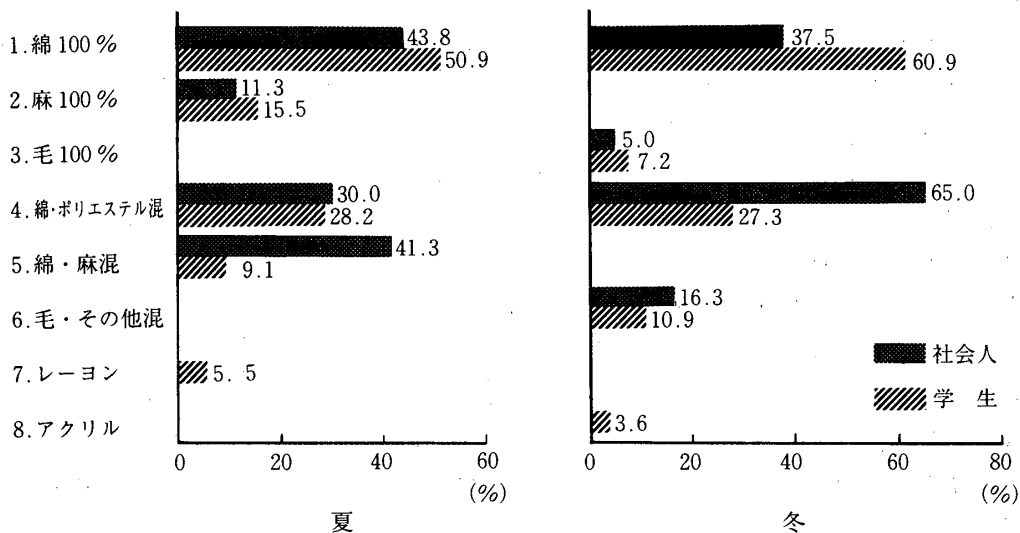


図4 着用するワイシャツの材質

次に、図4にワイシャツの材質について示した。社会人では、夏は綿100%を43.8%、綿・麻の混紡を41.3%と天然素材を好み、冬は綿・ポリエステル混紡を65.0%と半数以上が着用し

ている。それに対して学生では綿100%を、夏50.9%、冬60.9%と季節を問わず好んでおり、夏、社会人の着用度の高い綿・麻混は9.1%とわずかである。

図5はワイシャツの色彩別所持状況を示した。ワイシャツの各自が所持している中から多く持っている色彩3色を選出し、集計した結果である。社会人では白が最も多く93.8%である。いわゆるホワイトカラー族と言われるゆえんである。次いで、ブルー系を73.8%、グレー系46.3%、ベージュ系32.5%で、白を基調とし、やや地味な傾向である。これは職業にも関係するためか

と思われる。学生も上位3色は社会人と同傾向で白が89.1%と多く、次いでブルー系50.9%、グレー系36.4%となっている。しかし、その他の色彩として学生の場合、黒17.3%、ピンク系14.6%、グリーン系14.6%、イエロー系10.0%とわずかであるが社会人に比べ学生の方がこれらの色が多様化しているといえる。

図6にワイシャツ購入時の価格を示した。社会人は4000～6000円が37.5%で、次いで6000～8000円が23.7%、2000～4000円が22.5%と既製のワイシャツの場合は4000～6000円が最も多いという結果であった。社会人の中には高年層になるほど注文仕立のワイシャツ着用者が増え、また、既製ワイシャツの2000円未満のものを購入している5.0%はわずかであるが、バーゲン製品、スーパーなどで購入したものを着用していると考えられる。それに対して学生は2000～4000円が38.1%と占める割合が最も多い。なお、既製ワイシャツの1万円以上を3.5%の学生が購入しているが、社会人では出現していない。

図7はワイシャツをサイズ通りに購入したのに、体に合わないことがあったか、の質問に対する結果である。合わないことがあった人が40.0%もあり、これはメーカーによって各部位のサイズに差があるためか、あるいは購入時の自分のサイズに問題がある等の原因があげられる。後者については自分のサイズを良く理解して購入すべきである。合わなかった部位としては図に示す様に、首回りが46.9%と約半数を示し、次いで袖丈40.6%、胴回り21.9%と体型のゆるみ量の点をあげている。

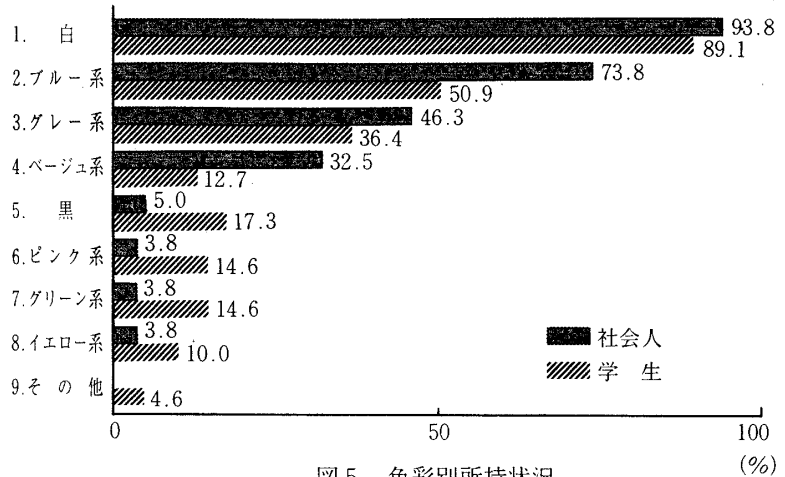


図5 色彩別所持状況

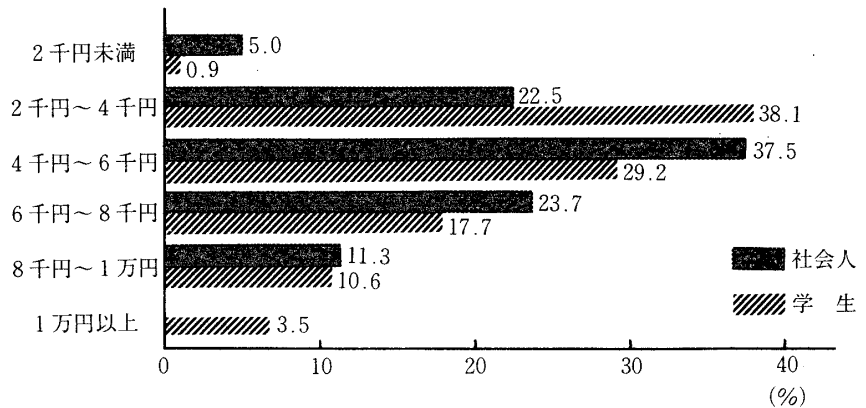


図6 購入するワイシャツの価格

図8にワイシャツ着用時の感覚について示した。ワイシャツ着用時の感覚20項目のうち、社会人は、1.清潔なが87.5%と最も多く、次いで、サラッとした38.8%、窮屈な36.3%、快い31.3%、軽い27.5%、肌触りが良い26.3%と続いており、これらの感覚は、窮屈な以外はすべて、ワイシャツ着用に対して好意的な感覚ばかりといえる。それに対して、学生では、清潔なは78.2%と社会人同様、高い感覚をもっているが、次には、窮屈な47.3%、サラッとした34.5%、圧迫された30.0%、ひんやりした28.2%、肩がこる26.4%と続いており、サラッとしたを除くとすべて、ワイシャツ着用に対して、非好意的な感覚ばかりが高い値を示すという結果であり、社会人と学生の間には大きな違いが見られた。

図9にワイシャツ着用時の下着の着用状況について示した。社会人はワイシャツの下に常時下着の着用者が多く90.0%であり、冬の下着の着用者は5.0%、着用しないが2.5%とごく少数である。また学生の場合も社会人同様、常時着用者が最も多く、67.3%を占めている。しかし、冬のみ着用が20.0%、着用しないが8.2%、時々着用が4.5%と社会人に比べて着用しない率が多くなっている。

次に図10にワイシャツに対してどのようなイメージを持っているかを知るために、活動性、評価の因子を含む形容詞対を中心に10形容詞対を選出し、SD法により5段階評定を行った結果を示した。図は、社会人、および学生の各形容詞対に対する平均値をプロットしたものであるが、社会人、学生とも非常に似た傾向を示している。ワイシャツのイメージとしては、静的な、地味な、かたい、洗練された、フォーマルな、オーソドックスな、上品ななどに高い値を示し、全体的には好意的なイメージを持っていると考えられる。しかしながら学生については先の着用時の感覚の調査では、非好意的な感覚を多くあげており、ワイシャツそのもののイメージと着用時の感覚とは異なったイメージを持っているといえる。

ワイシャツをサイズ通りに購入したのに体に合わないことがあったか

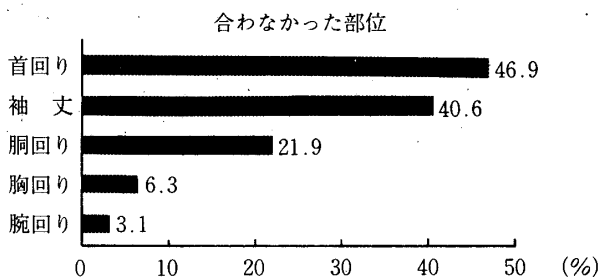


図7 既製ワイシャツの適合度

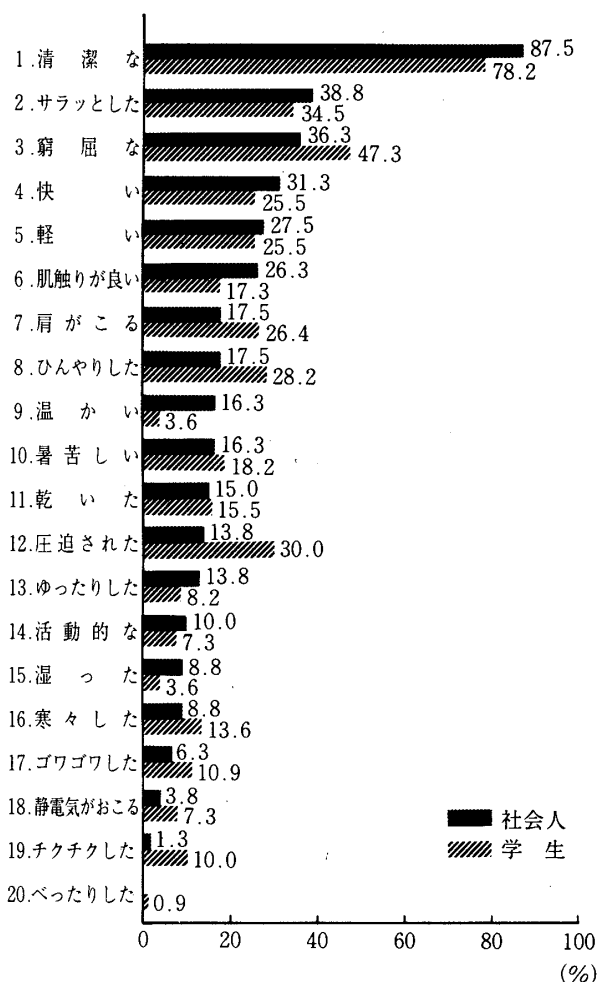


図8 ワイシャツ着用時の感覚

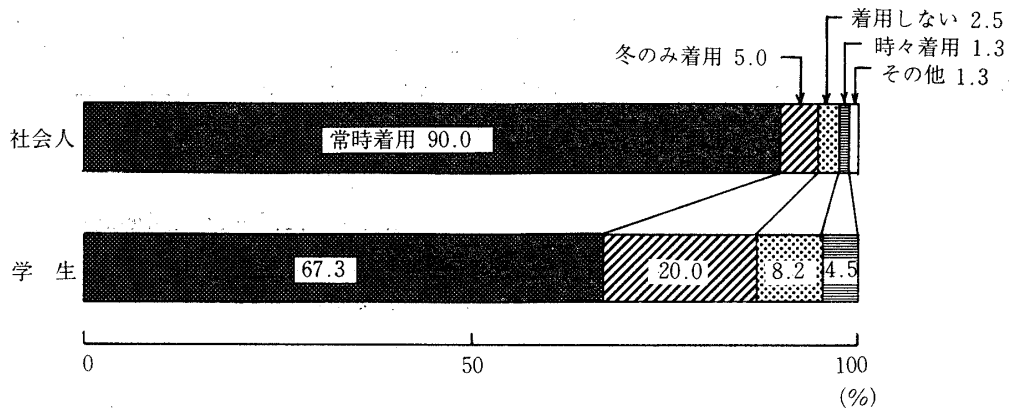


図9 ワイシャツ着用時の下着の着用状況

2. 官能検査

ワイシャツの官能検査を行うにあたり常に標準サイズ（首回り38cm，袖丈78cm）のワイシャツを着用している5名の男性を選出し，実際に着用テストを行った結果を表2に示した。被験者の年齢は40歳代である。用いたサンプルは，市販されているワイシャツの中から，体型別に，A体，Y体①，Y体②を取り上げ，それら3種の首まわり37cm，38cm，39cmのレギュラー・ポイントのワイシャツ計9種にMサイズの綿シャツ，首まわり38cmのボタン・ダウンシャツを加えて合計11種を用いた。なおA体，Y体①②の材質は，ポリエステル・綿の混紡であり，ボタン・ダウンシャツは綿100%である。

A体では，首回りサイズ39cmのワイシャツがいずれの部位も良であるが，袖丈のみ長い。首回りサイズ38cmのワイシャツは胸回りが小さい。首回りサイズ37cmのワイシャツは，いずれの部位も小さいと判定している。Y体①では，首回りサイズ39cmのワイシャツは，首回り，肩幅，胸回り，胴回りの部位は良であるが袖丈が長い。首回りサイズ38cmのワイシャツは，首回り，肩幅，胸回り，胴回りが非常に小さい。袖丈もやや短いと判定している。Y体②では，首回りサイズ39cmのワイシャツは，首回り，肩幅，胸回り，胴回りの各部位ともゆるみが多く，袖丈も長く，全体に大きい。首回りサイズ38cmのワイシャツは，いずれの部位も良である。首回りサイズ37cmのワイシャツは，首回り，肩幅，胸回り，胴回りは非常に小さいが，袖丈は良と判定している。綿シャツでは，首回りサイズMのワイシャツは，いずれの部位もやや小さい，

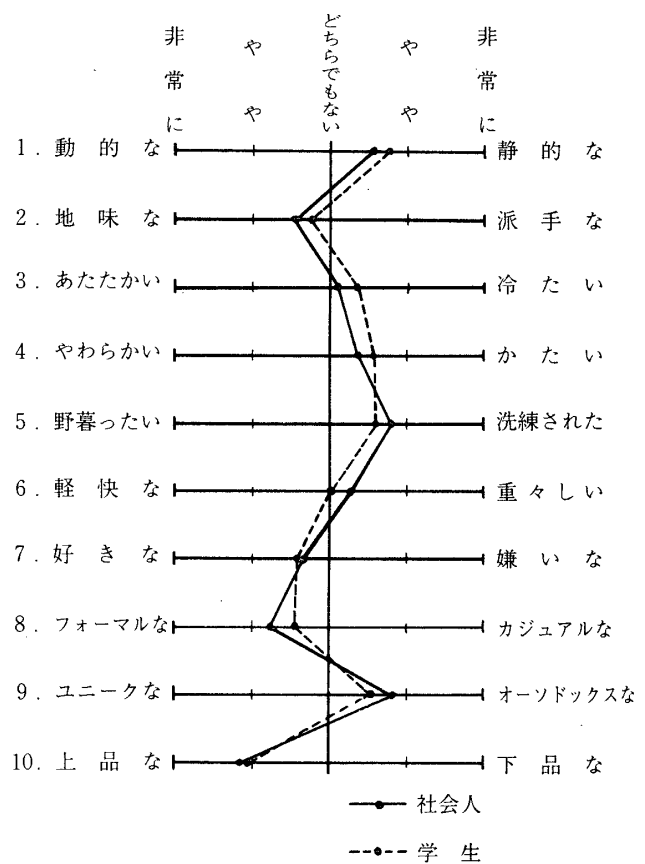


図10 ワイシャツに対するイメージ

首回りサイズ39cmのワイシャツは，首回り，肩幅，胸回り，胴回りの部位は良であるが袖丈が長い。首回りサイズ38cmのワイシャツは，首回り，肩幅，胸回り，胴回りが非常に小さい。袖丈もやや短いと判定している。Y体②では，首回りサイズ39cmのワイシャツは，首回り，肩幅，胸回り，胴回りの各部位ともゆるみが多く，袖丈も長く，全体に大きい。首回りサイズ38cmのワイシャツは，いずれの部位も良である。首回りサイズ37cmのワイシャツは，首回り，肩幅，胸回り，胴回りは非常に小さいが，袖丈は良と判定している。綿シャツでは，首回りサイズMのワイシャツは，いずれの部位もやや小さい，

表2 ワイシャツの着用感覚

No.	サンプル	素材	首回り	首	肩	胸	胴	袖
1	A 体	ポリエステル 65% 綿 35%	39	良	良	良	良	長い
2	後襟幅 3.9cm 前襟幅 6.7cm		38	やや良	良	小さい	良	良
3	襟先間 9.0cm		37	小さい	小さい	小さい	小さい	短い
4	Y 体①	ポリエステル 65% 綿 35%	39	良	良	良	良	長い
5	後襟幅 3.5cm 前襟幅 6.6cm		38	良	良	良	良	良
6	襟先間 7.6cm		37	非常に小	非常に小	非常に小	非常に小	やや短
7	Y 体②	ポリエステル 80% 綿 20%	39	ゆるい	ゆるい	ゆるい	ゆるい	長い
8	後襟幅 4.4cm 前襟幅 7.4cm		38	良	良	良	良	良
9	襟先間10.3cm		37	非常に小	非常に小	非常に小	非常に小	良
10	綿 シャツ	綿 100%	M	やや小	やや小	やや小	やや小	やや短
11	ボタンダウン	綿 100%	38	良	良	良	良	良

やや短い、と判定している。ボタン・ダウンでは、首回りサイズ38cmのワイシャツはいずれの部位も良と判定している。

今回の官能テストの被験者は40歳代としたが、各年齢層にわたり検査をした方が広範囲な結果が出たと思われる。また、40歳代でも大変異なり、前半の層はスリムを好み、後半の年齢層は運動量の多いゆったりとした型を好む傾向であった。また首回り、首の長さ、肩傾斜、胸回り、腕回り、袖丈など、体格・姿勢による違いも大きな要因ではないかと思われる。

要 約

ワイシャツの着衣動向とワイシャツの適合度および快適な着用感を限定する要因を検討するために1. アンケート調査、2. 官能検査を行った結果より、

1. ワイシャツの所持枚数は、1人当り社会人、学生とも長袖は6～10枚が多い。半袖は、長袖にくらべて少数で0～5枚である。
2. ワイシャツの襟型は、レギュラー・ポイント型が1人平均11.3枚と最も多く持っている。
3. ワイシャツの色彩は、社会人・学生とも同傾向で、白、ブルー系、グレー系の順である。
4. ワイシャツ購入時の価格は、社会人は4000～6000円が多く、学生は2000～4000円を占める割合が多い。
5. ワイシャツの材質は社会人はポリエステル・綿混紡が多いのに対して、学生は綿100%を好む。
6. ワイシャツ着用時のイメージについては、社会人では、清潔な、サラッとした、快い、軽いなどの好意的な感覚を主にあげているが、学生では、清潔な以外には、窮屈な、圧迫された、ひんやりした、肩がこるなどの非好意的な感覚を主にあげている。
7. 着用官能検査判定結果では、被験者の最適サイズより1サイズ上の場合は、首回り、肩幅、胸回りなどの部位は、それほど不快感はないが、袖丈が長く感じられる程度である。逆に1サイズ下の場合は袖丈以外の部位の方がかなり不快感がある。

文 献

- 1) 酒井清子：名古屋女子大学紀要, **12**, 18~24 (1966)
- 2) 小池三枝：繊維学会誌, **43**, 4~8 (1987)
- 3) 庄司 光：被服の衛生学, 52~133 (1985)